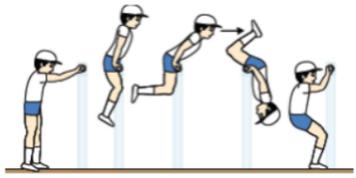
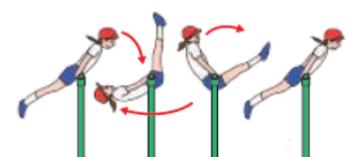


時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	<p>【知識及び技能】前方支持回転の行い方を知るとともに、前方支持回転に十分取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したりすることができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】前方支持回転の練習を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】前方支持回転に進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p>							
コア技術	<p>① つばめからの高速回転をしている。→腰から頭までをピンと伸ばし回転半径を大きくし、遠心力を使って回転力を上げる。</p> <p>② 手首を返している。→手首をすべらせ回し続けて鉄棒を下に押す。</p>							
めあて	学習の目当てを持ち、ふとんほし、つばめ、前回りおりをしよう。	ジャンプして前回りおりをしよう。	前方支持回転のポイントを考えよう。	補助付きで前方支持回転をしよう。	前方支持回転をよりよくするためのアドバイスを考えよう。	前方支持回転をよりよくするためのアドバイスを考えよう。	つばめからの高速スイングを意識して美しい前方支持回転をしよう。	学習の成果の発表会をしよう。
指導内容	<p>1. 準備運動（加茂小体操）</p> <p>2. 鉄棒運動への慣れの動き（技の予備的な運動）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>とびあがり</li> <li>つばめ（頭から足先まで真っ直ぐ伸ばし胸を張る。）</li> <li>ふとんほし→ふとんほしふり</li> <li>前回りおり→高速前回りおり</li> </ul> <p>鉄棒より後ろに着地できるようにする。前だるま回り</p>  <p>3. 前方支持回転へのスモールステップ① ジャンプして前回り下り</p> <p>通常の前回りおりではなく、前方支持の姿勢になる前に鉄棒に向かってジャンプし、その勢いを使って、スイングし前回りおりをさせる。できる児童は前回りおりではなく、そのまま前方支持回転をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>かかわりあい</b></p> <p>前回りをした後に着地した位置を伝えてあげたり、取り組む前の目標を伝えたりすることで、前方支持回転に必要な勢いを身に付けさせる。</p> </div>  <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動（加茂小体操）</p> <p>2. 前方支持回転のポイントの発見</p> <p>（前方支持回転 ポイント）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 両腕で身体を支える。（つばめ）</li> <li>② 肘を伸ばす。</li> <li>③ 背中を伸ばす。</li> <li>④ 身体を鉄棒から離さない。</li> <li>⑤ 頭を遠くに振る。</li> <li>⑥ 目線は遠くを見る。</li> <li>⑦ スイングで起き上がる。</li> <li>⑧ 手首を回しながら起き上がる。</li> <li>⑨ 腕支持のつばめの姿勢に戻る。</li> </ol> <p>3. 技を組み合わせる練習</p> <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動（加茂小体操）</p> <p>2. 前方支持回転のポイントの確認</p> <p>（前方支持回転 ポイント）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 両腕で身体を支える。（つばめ）</li> <li>② 肘を伸ばす。</li> <li>③ 背中を伸ばす。</li> <li>④ 身体を鉄棒から離さない。</li> <li>⑤ 頭を遠くに振る。</li> <li>⑥ 目線は遠くを見る。</li> <li>⑦ スイングで起き上がる。</li> <li>⑧ 手首を回しながら起き上がる。</li> <li>⑨ 腕支持のつばめの姿勢に戻る</li> </ol> <p>3. 子ども同士のかかわりあいの中で、動きのポイントを見付ける学習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>かかわりあい</b></p> <p>（1） 行う友達の前で「こっちだよー」と合図することで、目線を遠くにすることを意識させる。                  （2） 四人一組のグループを作り、一人は前、二人は後ろから補助をして、回転をサポートさせる。                  （3） 四人一組のグループで観察者①つばめの姿勢の確認②遠くを見ているか③回転できずに落ちた場合、鉄棒より後ろで着地しているかを見てチェックする。どこが良かったか、どこを直せばできるようになるかをアドバイスし合うようにさせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">前方支持回転ができるようになった子に対する目標設定</p> <p>【伸膝前方支持回転】</p> <p>※膝やつま先を伸ばしてより美しい動きで行ってみる。</p>  </div> <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動（加茂小体操）</p> <p>2. 発表方法の確認</p> <p>3. 発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ VTR の撮影・技の出来映えについて助言し合う。</li> </ul>  <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>				
指導上の留意点	<p>補助具：ゴムチューブ</p>  <p>ひもやロープを使って</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回り下りの着地した位置がより後ろにできた児童を見本にしながら、技が上手にできるポイントを考えさせる。それを交流することで、技を上手にするために何を意識するかを共通認識させる。</li> <li>・ 3時間目では、鉄棒の慣れの動きの時につばめの静止秒数を増やすことや、グループごとのリレーを取り入れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前方支持回転ができた児童に技の発表をさせ、なぜできるようになったかを全体で考えさせる。意見を出し合いながら、コア技術の確認をして、技が上手にできるポイントを共通理解させる。前方支持回転ができた児童をリーダーとし、前方支持回転ができない児童にどのポイントに気を付ければよいかアドバイスをさせる。児童同士の学び合いの場を作ることで、関わり合いながら技能向上させる。</li> <li>・ つまづき①体が伸びている→腰を曲げて鉄棒をはさむように声かけをする。</li> <li>・ つまづき②回転途中で落ちる→鉄棒を下に押すように声かけをする。鉄棒に飛び乗る練習をして、手首を回すイメージを付けさせる。</li> <li>・ 前方支持回転ができた児童は、二回連続の前方支持回転や伸膝の前方支持回転（つばめから始まり、つばめの姿勢に戻る）にチャレンジさせる。</li> </ul>						
知			① 観察・カード					② 観察・ICT
思					① 観察	② 観察		
態	③ 観察	④ 観察	⑤ 観察	② 観察・カード			① 観察・カード	

単元の評価規準

(1) 【前方支持回転（鉄棒運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 前方支持回転の行い方について、言ったり書いたりしている。 （知識） ② 支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返しながらか支持の姿勢に戻ることができる。（技能）	① 上手くできたところやできなかったところを、ICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きに照らし合わせ、自己の能力やグループの能力に適した課題を見付けている。 （思考・判断） ② 仲間のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを学習カードに書いたり、ICT機器を活用して、仲間やグループに伝えたりしている。（表現）	① 鉄棒運動の基本的な技である前方支持回転、発展技の膝を伸ばした前方伸膝支持回転に進んで取り組もうとしている。 ② 互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ③ 場の準備や片付けなど、分担された役割を果たそうとしている。 ④ 仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ⑤ 場の安全や、試技前後の安全に気を付けている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

(1) 知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 前方支持回転の行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	・ 前方支持回転の留意点を友達や教師に詳しく伝えたり、カードに書いたりすることができる。
② 支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返しながらか支持の姿勢に戻ることができる。	・ 滑らかな前方支持回転を連続して行うことができる。（何度も繰り返すことができる）

(2) 思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを、ICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きに照らし合わせ、自己の能力やグループの能力に適した課題を見付けている。	・ 上手くできたところやできなかったところを、ICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きに照らし合わせ、自己の能力やグループの能力に適した課題と解決方法を見付けている。
② 仲間のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを学習カードに書いたり、ICT機器を活用して、仲間やグループに伝えたりしている。	・ 仲間のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを学習カードに書いたり、ICT機器を活用して、文字や図、映像を活用して分かりやすく、仲間やグループに伝えたりしている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 鉄棒運動の基本的な技である前方支持回転や前方伸膝支持回転に進んで取り組もうとしている。	・ 前方支持回転から連続前方支持回転、前方伸膝支持回転への行い方を試している。
② 互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく、グループの仲間を励まし、観察したり、応援したりしている。
③ 場の準備や片付けなど、分担された役割を果たそうとしている。	・ 場の準備や片付けなど、分担された役割を率先して果たそうとしている。
④ 仲間の考えや取り組みを認めようとしている。	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
⑤ 場の安全や、試技前後の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく、周囲の安全や試技の前後にも気を配っている。